

名古屋大学 正会員 毛利正光
大阪大学 学生員 ○松本隆二

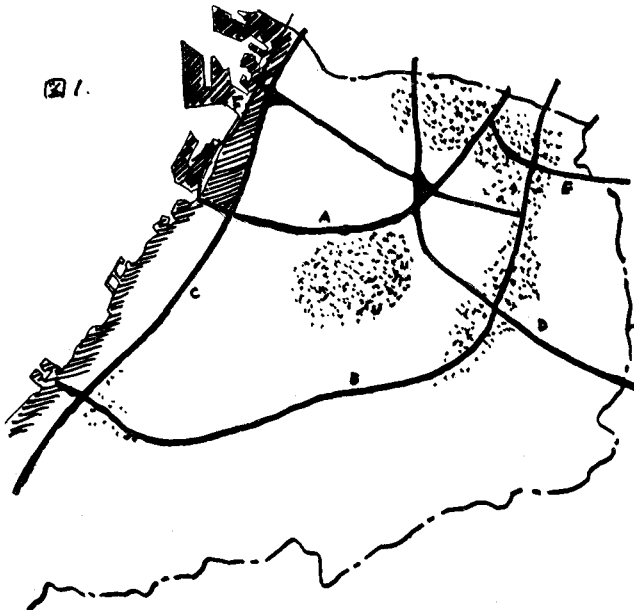
まえがき

南大阪は大阪府の大和川以南の面積、83,664 haの地域であり、大阪府総面積の45.7%を占める。当地域は最近になって活発に開発されるようになってきた。すなわち、堺東北臨海工業用地の埋立て事業、木材コンビナート（岸和田市）、水産コンビナート（泉佐野市）、泉北ニュータウン（堺市）、道路では、大阪中央環状線、外環状線、臨港道路、その他数本の放射道路の計画があり、すでに完成しているものもある。

I. 将来の住宅区

過去7年間のデータから南大阪における、将来20年間（昭和60年目標）の人口の増加を推計すると、724,011人となる。人口密度を120人/haと仮定すれば、将来約7,700 haの住宅区面積が必要となる。大阪府企業局による泉北ニュータウンによって、180,000人を吸収しても、約744,000人のための住宅区が必要となってくる。現在までの傾向は限和線などの海岸部、近鉄南大阪線などの内陸部におけるスプロールは特色づけられるが、将来臨海部における工業地帯が拡大化してくると、住宅区と工業区とが隣接することはになり、環境の悪化が予想される。泉北ニュータウンを1つの核として、内陸部への住宅区の進展を推進すべきであると考えらる。そのためには、どうしても交通施設の拡充が必要となる。泉北ニュータウンは、大阪都心から20 kmの位置にあり、通勤巨魁としては遠くないが将来発展が予想される臨海部の工業地帯と関連をもたせるべきであろう。（図1参照）

図1.



- //// 将来工業区
- 将来住宅区
- A 大阪中央環状線
- B 大阪外環状線
- C 第2阪和国道
- D 大阪千早線
- E 名阪国道
- F 大阪臨港線

Ⅱ. 将来工業区 (図1参照) 将来20年間の従業員増加は、133,734人と推計された。

Ⅲ. 南大阪における交通発生量。

交通発生率 $F = \alpha \beta \gamma$ にて算定した。ここに α は昼間人口の比率、 β は保有台数の比率、 γ は乗用率、小型貨物車、普通貨物車それぞれ別個に仮定値を定めた。

表1 南大阪市町村別人口推計

地区別人口	夜間人口(人)			昼間人口(人)	
	昭和40年人口	昭和60年推計人口	昭和60年/昭和40年	昭和40年人口	昭和60年推計人口
松原市	71,406	128,560	1.80	56,299	101,338
羽曳野市	50,331	81,684	1.62	38,685	62,670
藤井寺市	38,222	76,502	2.00	31,868	63,736
南河内郡美原町	17,429	31,111	1.79	14,752	26,406
〃 狭山町	12,502	16,567	1.33	10,847	14,427
〃 牛滝東坂村	5,440	4,831	0.89	4,557	4,056
〃 太3町	6,083	6,374	1.05	4,874	5,118
〃 河内町	8,139	7,910	0.88	7,261	6,390
富田林市	47,985	71,055	1.48	42,263	62,549
河内長野市	40,108	54,337	1.35	36,151	48,804
堺市	466,378	936,594	2.01	438,162	709,822
高石市	45,679	72,924	1.60	34,387	55,019
泉北郡志田町	15,077	22,847	1.52	13,215	20,087
泉大津市	53,313	82,049	1.54	53,602	82,547
和泉市	84,759	154,938	1.83	74,649	136,608
岸和田市	143,705	211,380	1.47	127,730	187,763
貝塚市	69,364	79,124	1.14	64,663	73,716
泉佐野市	66,521	72,783	1.39	63,760	88,626
泉南郡熊取町	12,211	16,917	1.39	11,124	15,462
〃 泉南町	35,235	54,545	1.55	34,075	52,816
〃 岬町	20,084	22,340	1.11	15,433	17,131
〃 田尻町	7,887	8,198	1.04	6,273	6,524
〃 南海町	14,643	17,975	1.23	12,341	15,179
〃 東鳥取町	9,273	15,085	1.63	8,531	13,906
南大阪合計	1,342,594	2,266,605	1.69	1,205,502	1,870,700

(注) 各年人口は、10月1日現在の値である。(大阪府調べ)

昼間人口は、夜間人口の比率に同一と仮定して推計した。

表2 南大阪における交通発生量の予測 (4007E: F/日)

予測	乗用車			小型貨物車			普通貨物車			全車		
	昭和40年	昭和60年	F	昭和40年	昭和60年	F	昭和40年	昭和60年	F	昭和40年	昭和60年	F
764	12,730	44,445	3.486	28,384	92,220	3.249	1,791	5,873	3.279	42,913	136,635	3.184
763	19,077	69,746	3.656	27,653	63,546	2.143	2,557	4,861	1.901	51,287	123,709	2.416
762	25,277	150,297	5.946	72,934	191,452	2.625	3,231	6,730	2.082	101,442	351,497	3.465
461	75,530	417,832	5.532	90,170	238,229	2.642	10,159	27,714	2.728	175,859	618,144	3.515
751	23,302	94,653	4.062	57,979	171,240	2.955	3,043	9,354	3.074	86,324	266,310	3.085
752	13,949	53,536	3.838	42,329	106,737	2.521	3,125	8,531	2.730	59,413	108,072	1.819
753	28,871	88,634	3.070	61,420	127,166	2.103	4,338	8,038	1.853	94,629	212,158	2.242
南大阪合計	198,744	919,103	4.625	384,879	972,590	2.579	28,224	71,101	2.517	611,869	1,816,725	2.969